

研究発表会開催通知

(平成2年12月15日～平成3年1月31日)

研究会	日 時		会 場	備 考
情報学基礎	12月18日(火)	13:00～18:00	機械振興会館	前号参照
記号処理	1月11日(金)	13:30～17:00	東 大	下記参照
情報システム	1月16日(水)	13:00～17:00	機械振興会館	同 上
人工知能	1月16日(水) 1月17日(木)	13:00～17:00 10:00～14:10	京都リサーチ パーク	同 上
データベース・システム	1月17日(木)	10:00～17:10	名 大	同 上
ヒューマンインタフェース	1月17日(木)	13:00～17:00	機械振興会館	同 上
コンピュータと教育	1月17日(木)	13:30～16:00	同 上	同 上
自然言語処理	1月17日(木) 1月18日(金)	13:00～17:00 10:00～16:40	福岡リーセント ホテル	同 上
マルチメディア通信と分散処理	1月24日(木)	10:00～17:00	機械振興会館	同 上
計算機アーキテクチャ	1月24日(木)	13:00～17:00	京都リサーチ パーク	同 上
コンピュータビジョン	1月24日(木) 1月25日(金)	9:00～17:10 9:00～17:10	A T R	同 上
アルゴリズム	1月29日(火)	9:00～14:00	阪 大	同 上

◆ 第60回 記号処理研究会

(発表件数: 4件)

(主査: 竹内郁雄, 幹事: 相場 亮, 小谷善行, 多田好克)

日 時 平成3年1月11日(金) 13:30～17:00

会 場 東京大学 大型計算機センター 講習会室

[東京都文京区弥生 2-11-16, 地下鉄(千代田線): 根津下車, 徒歩7分, Tel. 03 (812) 2111 内 7410]

議 題

- (1) C言語の問題向き拡張用言語変換システム: OPTEC 小島泰三, 杉本 明, 阿部 茂 (三菱電機)
〔概要〕 プログラム言語の問題向き拡張には構文および語義の拡張機能が必要である。この拡張手法について説明する。
- (2) YY へのカラーグラフィック機構の組み込みについて 大田幸雄, 田中啓介, 古坂孝史, 井田昌之 (青山学院大)
〔概要〕 UI ツールにおけるカラーイメージ処理について設計と YY での試作を行った。これに関する機構について論じる。
- (3) Lisp のデータ配置についての一技法について 寺島元章 (電通大)
〔概要〕 Common Lisp に代表される多種多様なデータ型を汎用計算機の 32 ビットのアドレス空間に効率的に配置する技法とその具現について述べる。
- (4) Multiple Type-link Object の提唱 塚田晴史, 杉村利明 (NTT)
〔概要〕 複数のクラスに所属するオブジェクトを提唱する。アクセス時にオブジェクトの所属を指定する方式を検討した。

◆ 第 32 回 情報システム研究会

(発表件数：6 件)

(主査：伊吹公夫，幹事：北風晴司，鷹野 澄，西原良一)

日 時 平成 3 年 1 月 16 日 (水) 13:00~17:00

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室

[東京都港区芝公園 3-5-8, 地下鉄：日比谷線神谷町，浅草線大門，三田線 御成門下車，または JR：浜松町下車，バス：渋谷ー東京タワー線東京タワー，渋谷ー東京駅八重洲線虎ノ門 5 丁目下車. Tel. 03 (434) 8211]

議 題 特集：ファジィの応用と情報システム

- (1) 情報システムへのファジィの応用例の分析 藤森聿子 (国際ファジィ工学研)
〔概要〕 従来のマシンに歩みよるシステム化からファジィがいかに人間に近づけたかなどファジィの適切な応用について論ずる.
- (2) 環境長期予測支援システムの開発 甲斐沼美紀子，森田恒幸 (国立環境研)，中森義輝 (甲南大)
〔概要〕 専門家の知識を利用しながら予測を行うためのファジィ理論を適用した予測支援システムの開発とその応用.
- (3) 事例からの一般化シナリオ学習に基づく意志決定支援と知識獲得 榎木哲夫，片井 修，岩井壮介 (京大)
〔概要〕 エピソードから帰納学習された一般化シナリオのもとでの事象予測・知識獲得をファジィ推論により実現する.
- (4) Fuzzy 推論における If-Then rule の導出 下田 陸，石川知雄 (武蔵工大)
〔概要〕 Fuzzy if-then rule を教師データから多変量解析的手法を用いて導出する研究と音声 (母音) 識別への応用.
- (5) ファジィ・ニューラルネットによる植物生長のモデル 平藤雅之 (農林水産省)
〔概要〕 植物生理に関する曖昧性と，形態等に関する構造的論理性を統一的に扱う植物生長モデルを提案する.
- (6) ファジィ論理によるカーネーション苗の判別 増井重弘 (法政大)
〔概要〕 自然物は同一種類でも形状，色彩など様々であり，定性的判断を要する. そこでファジィ論理を用いて苗の品質を判別した.

◆ 第 74 回 人工知能研究会

(発表件数：11 件)

(主査：石塚 満，幹事：原口 誠，松原 仁，吉田裕之)

日 時 平成 3 年 1 月 16 日 (水) 13:00~17:00

1 月 17 日 (木) 10:00~14:10

会 場 京都市サーチパーク サイエンスセンタービル 4 階 AV 会議室

[京都市下京区中堂寺南町 17, JR (山陰本線)：丹波口下車，徒歩 5 分，または JR：京都下車，市バス (73, 75 番)，京都バス (81, 84 番)：五条千本下車. 阪急：四条大宮下車，市バス (32, 66 番)：五条千本下車，徒歩 2 分. Tel. 075 (322) 7800]

議 題

1 月 16 日 (水) —13:00~17:00—

- (1) 制約論理型プログラミング言語における変数管理方式 碓崎賢一 (九工大)
〔概要〕 変数セルに制約情報を付加した，論理型プログラミング言語における制約管理機構について述べる.
- (2) 自己認識的データベースについて 森 有一，馬場口登，手塚慶一 (阪大)
〔概要〕 自己認識論理の表現形式・意味論を利用したデータベースである自己認識的データベースを提案する.
- (3) 確率モデルの学習方式と診断への応用 中莖洋一郎 (日電)
〔概要〕 確率的に起る事象を対象とし，確率モデルを学習する方式，診断への応用，実験結果について述べる.
- (4) 環境適応のためのチャンキングメカニズム 早勢欣和，畷見達夫，川田重夫 (長岡技科大)
〔概要〕 分脈情報と単純状態遷移確率からマクロを生成するメカニズムについて提案する.

- (5) 状態記述系列からのオペレータの生成 下畑光夫, 山田誠二, 安部憲広, 辻 三郎 (阪大)
〔概要〕 環境の変化系列からオペレータを生成する方法と, 適切な状態記述を提案する。
- (6) ルールと例題の類似性に基づく学習法 森 敏昭, 大川剛直, 馬場口登, 手塚慶一 (阪大)
〔概要〕 例題と既存ルールの類似性に着目することにより1つの例題からルールを生成する手法について述べる。

1月17日(木)

—10:00~11:45—

- (7) 対話型概念学習の一手法 —中心仮説選択法— 山口尚吾, 大川剛直, 馬場口登, 手塚慶一 (阪大)
〔概要〕 初期例題を基に一般化木を構成し, その深さに着目した例題選択を行う対話型概念学習手法を述べる。
- (8) ネットワークの挙動推定システム 黒川 寛, 中野浩之, 馬場口登, 手塚慶一 (阪大)
〔概要〕 ネットワーク上のフローの推移を大局的に解析し, その挙動を推定するシステムを提案する。
- (9) 定量データから生成した時間概念を用いた定性シミュレーション手法 秋吉政徳, 西田正吾 (三菱電機)
〔概要〕 定量データの特徴点から概念的な時間軸を生成し, その時間に基づいた定性シミュレーション手法について述べる。

—13:00~14:10—

- (10) 同期型待ち行列ネットワークのボトルネックに対する定性的なパラメータチューニング
志田圭介 (上智大), 本位田真一 (東芝), 伊藤 潔 (上智大)
〔概要〕 同期型待ち行列ネットワークのボトルネックを改善するパラメータチューニングの複数プラン生成に定性推論を導入。
- (11) 待ち行列ネットワークのボトルネックに対する定性的なパラメータチューニングの定量的な評価
金野孝顕, 志田圭介 (上智大), 本位田真一 (東芝), 伊藤 潔 (上智大)
〔概要〕 定性推論で得られたパラメータチューニングの複数プランから効果の高いプランを選択するための定量的な評価。

* (財)京都市高度技術研究所 (ASTEM) との共催です。

* 当研究会に引き続いて (17日午後, 18日) 同一会場にて電子情報通信学会 (人工知能と知識処理研究会) と人工知能学会 (知識ベース研究会) の合同研究会が開催されます。17日夕刻に3研究会合同の懇親会を行う予定です。

◆ 第81回 データベース・システム研究会

(発表件数: 8件)

(主査: 牧之内顕文, 幹事: 北川博之, 佐藤和洋, 田中克己)

日 時 平成3年1月17日(木) 10:00~17:10

会 場 名古屋大学 大型計算機センター 4階 演習室

〔名古屋市中千種区不老町, 名古屋駅より地下鉄(東山線): 本山下車(約20分), 徒歩約15分, または幹線バス

③: 名古屋大学前下車(約5分). Tel. 052 (781) 5111 内 5802, 3787〕

議 題

—10:00~12:00—

- (1) マルチメディアデータの内容検索についての一考察 宝珍輝尚 (NTT)
〔概要〕 マルチメディアデータの内容検索レベルを提案し, 該レベルに従って検索を行う枠組みについて考察する。
- (2) NOAA クイックルック画像 DB に関する一考察 中山雅哉 (豊橋技科大)
〔概要〕 日本付近の情報を取り出したクイックルック画像のデータベースを構築している。本稿ではその改良法を述べる。
- (3) マルチメディアデータベースの枠組み 竹平真則, 渡辺豊英, 吉田雄二 (名大)
〔概要〕 マルチメディアデータベースの構築に向けて, データ相互の表現構造に意味づけを与えて, 有機的にデータ操作可能な枠組みについて述べる。

—13:30~17:10—

- (4) 複合オブジェクトの符号化 小濱千恵, 中野良平 (NTT)
〔概要〕 集合とタプルを構成子とする複合オブジェクトを値とする1対1に高速に符号化する手法を提案する。

(5) データベース操作インタフェースの高度化に関する考察

上原祐介, 渡辺豊英, 吉田雄二 (名大), 福村晃夫 (中京大)

〔概要〕 データベース操作の高度化を目的に, データスキーマの表現構造と質問文の解釈処理について検討する。

(6) 利用環境適応型データベースサービスのためのシステム構成 磯本征雄, 吉根勝美 (名古屋市立大)

〔概要〕 利用者自作の応用プログラムにデータ提供の可能なデータ再編集機能を備えたデータベースサービス法について発表する。

(7) フォーム定義・制御に着目した情報システムの構築について 谷川英和 (松下電器)

〔概要〕 フォーム定義・遷移の記述情報からアプリケーションを起動する UI 主導型情報システムの構築について述べる。

(8) IKD: 知識型システムデータベース統合化のための一構造について 伊藤秀昭 (中京大)

〔概要〕 知識型システムとデータベースシステムを統合化するためのツール IKD の構造について述べる。

◆ 第 34 回 ヒューマンインタフェース研究会

(発表件数: 6 件)

(主査: 木村 泉, 幹事: 小橋史彦, 角田博保, 黒須正明)

日 時 平成 3 年 1 月 17 日 (木) 13: 00~17: 00

会 場 機械振興会館 地下 3 階 2 号室 (所在地は前記参照)

議 題

(1) ヒューマンインタフェース設計のための誘発電位と平均加算回数 加藤修一, 小暮隆太郎 (帝京技科大)

〔概要〕 聴性脳幹反応を始めとする誘発電位の加算回数は実験的にも明らかでない。今回は相関関数の手法でその妥当性を検討した。

(2) プラガブル MVC に基づく UIMS: Talkie 柴原修二, 藤村 茂, 富田昭司 (横河電機)

〔概要〕 プラガブル MVC の拡張である MVCG とそれに基づく UIMS, Talkie について述べる。

(3) フレームを用いた思考支援手法 清末悌之, 中川 透 (NTT)

〔概要〕 規程文書中の情報を検索するために, キーワードとその概念をペアにしたものの集合 (フレーム) を用いる。

(4) かな漢字変換評価技術の開発 恒川昌昭, 高尾直弥, 角 史生 (松下電器)

〔概要〕 開発の効率化 (開発期間, 信頼性等) をはかるため変換性能の定量的把握および信頼性検証の自動化技術を開発。

(5) 学習の転移からみたキーボード操作系に関する研究

辛島光彦, 関 宏幸 (早大), 平澤尚毅 (小樽商大), 石田敏郎 (早大)

〔概要〕 キーボードに着目して, 操作系が変換されたときの学習過程, 転移について検討し, 統計モデル構築を試みた。

(6) 打鍵データに基づく個人認証システムの作成と評価

森 裕子, 小松賢嗣, 赤池英夫 (電通大), 粕川正充 (東工大), 角田博保 (電通大)

〔概要〕 日本人特有のローマ字入力に着目し, 打鍵データに基づく個人認証システムに関して考察した。

◆ 第 14 回 コンピュータと教育研究会

(発表件数: 3 件)

(主査: 有山正孝, 幹事: 雨宮幸雄, 大槻説乎, 竹谷 誠)

日 時 平成 3 年 1 月 17 日 (木) 13: 30~16: 00

会 場 機械振興会館 地下 3 階 1 号室 (所在地は前記参照)

議 題

(1) 戦略的課題系列化法 竹谷 誠 (拓殖大)

〔概要〕 ネットワーク構造をもつ課題に対する問題解決技法として, 脈絡を重視した課題系列化法を提案する。

(2) CAI 映像教育 平沢洋一, 渋井二三男 (城西大学女子短大)

〔概要〕 CAI を使用した映像教育を実践し、その評価を得たので発表する。

(3) 学生データに基づく情報処理教育改善のための試案

田村幸子 (福岡女子短大)

〔概要〕 学生の意識調査および自己評価から改善案を抽出し、教育内容へフィードバックする試みについて報告する。

◆ 第 81 回 自然言語処理研究会

(発表件数: 14 件)

(主査: 野村浩郷, 幹事: 田中裕一, 徳永健伸, 内藤昭三)

日 時 平成 3 年 1 月 17 日 (木) 13:00~17:00

1 月 18 日 (金) 10:00~16:40

会 場 福岡リーセントホテル 2 階 舞鶴 A

(福岡市東区箱崎 2-52-1, JR: 博多下車, 地下鉄: 箱崎宮前 (3 番出口) 下車 (12 分), またはバス: 箱崎浜下車 (20 分). 空港からは車で 20 分). Tel. 092 (641) 7741)

議 題

1 月 17 日 (木)

(1) 形態素抽出マシン MEX-II

福島俊一 (日電)

〔概要〕 形態素抽出ハードウェアアルゴリズムを LSI 化し、50 万語単語辞書を搭載した専用ハードウェアの報告。

(2) 日本語の語順に関する一考察 — 情報理論の観点から —

徳永健伸, 田中穂積 (東工大)

〔概要〕 情報理論の尺度を利用し、文末の動詞の予測可能性という観点から日本語の語順について論じる。

(3) 論理型文法に基づく制限依存文法

福本文代, 佐野 洋 (ICOT), 斉藤葉子 (OTSL), 福木淳一 (沖電気)

〔概要〕 1 型規則に文の構造を反映させた統語制約を加えて実現した日本語のための依存文法の記述枠組について述べる。

(4) チャート構造上での意味処理メカニズム

M. J. W. Bos, 田村直之, 村上温夫 (神戸大)

西田 収, 吉見毅彦 (シャープ), J. Jelinelt (シェフィールド大)

〔概要〕 遅延評価を用いて、得点付き AND-OR グラフ上から最適な部分グラフを効率よく取り出す方法について述べる。

(5) 語義文からの動詞間の上位-下位関係の抽出 — 機能語列の取り扱いについて —

富浦洋一 (九大)

〔概要〕 語義文の主節の動詞に機能語列がついた場合に、どのような上位-下位関係が抽出できるかについて述べる。

(6) 日本語データベース処理システムの試作 — パーソナルコンピュータ上での実現 —

笠 見一, 小林修二 (JDNL), 横田将生 (福岡工大)

〔概要〕 実用化を旨として、日本語によるデータベース検索システムをパーソナルコンピュータで試作した。

1 月 18 日 (金)

— 10:00~12:00 —

(7) 中間言語を得るための自然言語解析システム

内田裕士, 朱 美 英 (富士通研)

〔概要〕 自然言語文から中間言語を直接的に得るための自然言語解析システムの構成および文法記述の方法について述べる。

(8) 自然言語概念の意味構造モデルと会話文データベースへの応用

野崎剛一 (長崎大), 脇山正博, 河口英二 (九工大)

〔概要〕 自然言語における概念の意味構造記述モデルを提案し、英会話文データベースに対する応用について報告する。

(9) SD 式モデルによる物語文の意味処理の試み

脇山正博 (九工大), 野崎剛一 (長崎大), 河口英二 (九工大)

〔概要〕 SD 式モデルによる物語文の照応解析・意味的質問応答・自然言語生成等の意味処理モデルについて報告する。

—13:00~16:40—

- (10) Communicative Approach に基づく英会話 ICAI システムの文生成について

浅野雅代 (OTSL), 井谷浩二 (OGIS総研), 甲斐郷子 (沖電気), 大場克哉 (OGIS総研)

〔概要〕 Communicative Approach に基づいた英会話 ICAI システム を実現するための文生成方式について考察する。

- (11) 表層表現の型を用いた対話文の生成について

菊井玄一郎, 鈴木雅実 (ATR)

〔概要〕 意図伝達に関する表現の慣用的な型と, これを用いて訳文を生成する手段について述べる。

- (12) 中間言語からの自然言語生成システム

内田裕士, 朱美英 (富士通研)

〔概要〕 中間言語から自然言語文を直接的に得るための自然言語生成システムの構成および文法記述の方法について述べる。

- (13) 電話対話における次発話内の名詞句表現の予測

有田英一 (三菱電機), 山岡孝行, 飯田 仁 (ATR)

〔概要〕 電話対話に出現する名詞句表現の変化の分析を基に, 文脈に依存して決まる名詞句の表現を予測する手法を示す。

- (14) 機械翻訳システムの社会的役割

田中康仁 (姫路短大)

〔概要〕 機械翻訳システムは一つの社会の機能となりつつある。この認識のもとに今後の研究を進めなければならない。

*17日の研究会終了後に懇親会を行います。懇親会参加希望者は、下記までお申し込みください。

申込先: 徳永健伸 東工大・工・情報工学 152 目黒区大岡山 2-12-1

Tel. 03 (726) 1111 内 4188 FAX 03 (729) 1399 E-mail:take@cs.titech.ac.jp

◆ 第48回 マルチメディア通信と分散処理研究会

(発表件数: 11件)

(主査: 松下 温, 幹事: 水野忠則, 山崎清明, 若山博文)

日時 平成3年1月24日(木) 10:00~17:00

会場 機械振興会館 6階 65号室(所在地は前記参照)

議題 特集: マルチメディア

—10:00~12:00—

- (1) マルチメディア処理システムにおける ISDN の網制御方式について

楠田哲也, 岡村晋作 (NTT データ)

〔概要〕 音声・FAX・データ等のメディアを意識した ISDN の回線接続制御方式を提案する。

- (2) FAX イメージ情報分散処理システムの検討 —ソフト FAX メールシステム— 松本匡通 (NTT)

〔概要〕 ファクシミリ端末で送受信するイメージ情報をベースに電子メール・電子掲示板等の機能を分散処理するシステムを実現した。

- (3) B-ISDN を活用したグループワーキングシステムの提案

高橋泰弘, 星 徹, 中村史朗, 森下孝一, 本間信幸, 中村新一 (日立)

〔概要〕 B-ISDN を活用したグループワーキングシステムの提案と医療分野向けプロトタイプについて述べる。

- (4) マルチメディア通信によるグループ活動支援システム

落井裕治, 藤井 健 (日立ソフト)

〔概要〕 ハイパコミュニケーションにより人間のグループ活動を支援するシステムについて述べる。

—13:00~17:00—

- (5) マルチメディア知識ベースシステム

藤田岳久, 坂口哲男, 杵本重男, 田畑孝一 (情報大)

〔概要〕 映像・音響などのマルチメディア情報をクラス体系化して知識を記述するシステムを開発した。

- (6) マルチメディア文書入力のための文書画像認識システム: DRS

天野富夫, 山下晶夫, 伊東伸泰, 小林芳直, 豊川和治 (日本IBM)

〔概要〕 文書画像のレイアウト解析や文字認識を行いマルチメディアへの変換を支援するシステムについて述べる。

(7) マルチメディア情報を利用した知的図面検索手法

島 光秀, 脇本浩司, 田中 聡, 柴山純一, 前田 暲 (三菱電機)

〔概要〕 図面の記入内容を検索キーとして, 知識を用いて類似した図面や関連した図面を検索する手法について述べる。

(8) ソフトウェア開発サテライトオフィスの実験

小柳津育郎, 山口利和, 若山博文, 倉田冬彦 (NTT)

〔概要〕 ソフトウェアの分散開発における ISDN オーディオ・グラフィック通信会議端末の利用実験について述べる。

(9) ISDN を利用したオーディオ・グラフィック通信会議端末の設計

山口利和, 田中清人, 高橋 護, 宮保克明 (NTT)

〔概要〕 グラフィック情報のリアルタイム通信制御法を中心に述べる。

(10) マルチメディア通信用暗号 LSI

小柳津育郎, 松本博幸, 石井晋司 (NTT)

〔概要〕 ファイルデータおよびリアルタイムで発生する音声・映像データを暗号・復号処理する 1チップ LSI を開発した。

(11) カラー 2 値画像の拡大縮小とその評価

小柳津育郎, 田中清人 (NTT)

〔概要〕 オーディオ・グラフィック通信会議端末のカラー 2 値画像表示に必要な拡大縮小変換法とその評価を述べる。

◆ 第 78 回 計算機アーキテクチャ研究会

(発表件数: 5 件)

(主査: 富田眞治, 幹事: 後藤厚宏, 村上和彰, 横田 実)

日 時 平成 3 年 1 月 24 日 (木) 13:00~17:00

会 場 京都リサーチパーク サイエンスセンタービル 4 階 AV 会議室

〔京都市下京区中堂寺南町 17, JR (山陰本線): 丹波口下車, 徒歩 5 分, または JR: 京都下車, 市バス (73, 75 番), 京都バス (81, 84 番): 五条千本下車. 阪急: 四条大宮下車, 市バス (32, 66 番): 五条千本下車, 徒歩 2 分. Tel. 075 (315) 8652〕

議 題

(1) フォールト・トレラント・コンピュータ

河部本章 (富士通)

〔概要〕 無停止・連続運転を実現した SURE SYSTEM 2000 新通信プロセッサのアーキテクチャについて。

(2) 高性能 OLTP の実現

野崎正治, 森 良哉, 滝本秀明 (東芝)

〔概要〕 ミッドレンジコンピュータをベースとして, 高速性と高信頼性を両立させるための新しい方式を提案し, 評価する。

(3) DSN 型スーパスカラ・プロセッサ・プロトタイプの分岐パイプライン

原 哲也, 久我守弘, 村上和彰, 富田眞治 (九大)

〔概要〕 分岐ペナルティを抑えるための分岐アーキテクチャおよび分岐命令のパイプライン処理過程について述べる。

(4) DSN 型スーパスカラ・プロセッサ・プロトタイプのロード/ストア・パイプライン

納富 昭, 久我守弘, 村上和彰, 富田眞治 (九大)

〔概要〕 複数命令の同時実行が可能なロード/ストア命令アーキテクチャおよびそのパイプライン処理過程について述べる。

(5) 記号処理における命令レベル並列性

丸山 勉 (日電)

〔概要〕 Lisp における命令レベル並列性のシミュレーション評価についてメモリ, 分岐方式, タグ等を中心に述べる。

*IEEE Computer Society Tokyo Chapter 協賛

*研究会終了後, 京都高度技術研究所 (ASTEM) の見学を行います。

◆ 第70回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数: 11件)

(主査: 谷内田正彦, 幹事: 田島謙二, 富田文明)

日時 平成3年1月24日(木) 9:00~17:10

1月25日(金) 9:00~17:10

会場 国際電気通信基礎技術研究所(ATR)

[京都府相楽郡精華町乾谷三平谷, 近鉄(京都線): 高の原下車, 近鉄(奈良線): 学園前下車, JR 学研都市線): 祝園下車, いずれからも車で約10分(ATRからは社員送迎バスあり). Tel. 07749(5)1260(岸野)]

議題

1月24日(木)

—9:00~12:00—

- (1) 両眼立体視による3次元錯視現象とコンピュータビジョン 出澤正徳(理研)
[概要] 両眼立体視による3次元錯視現象および空間知覚機能の解明と工学的実現の研究への応用について述べる。
- (2) 水平三眼ステレオによる遮蔽輪郭線からの曲面形状復元 植芝俊夫, 富田文明(電総研)
[概要] 水平三眼ステレオにより, 物体の遮蔽輪郭線から物体の凹凸の判定および曲面形状の復元を行う。
- (3) 多重スケールでの正則化によるステレオ画像からの曲面再構成 横矢直和, 村木 茂(電総研)
[概要] ステレオ画像の多重スケール表現を用いて正則化の枠組によって密な奥行きマップを再構成する手法について述べる。
- (4) 三眼視による曲面境界線の分類と三次元情報の獲得 穴吹哲士, 谷内田正彦(阪大)
[概要] 三眼視により, 面が交わってできる稜線と, ある視点から観測できる曲面の画像上での境界線とを識別する。
- (5) 時系列ステレオ画像を用いた環境モデルの構築 津戸明広, 谷内田正彦(阪大)
[概要] ロボットの移動により得られた時系列ステレオ画像を線分レベルで対応付けし, 環境モデルを構築する。
- (6) ハンドアイロボットのためのステレオビジョン 高橋裕信, 寺崎 肇, 杉本和英(三洋電機), 富田文明(電総研)
[概要] ハンドアイロボットの視覚としてステレオビジョンを用いて物体の Pick and Place を行う方法を述べる。

—13:00~17:10—

- (7) 3次元回転場と2次元速度場 林 成起, 田村進一(阪大)
[概要] 物体の3次元回転場とともなう輝度変化に関する基本式を導き, 実験例を示す。
- (8) 知的画像切り出し 平田真一, 白井良明, 浅田 稔(阪大)
[概要] 道路の単一カラー画像において, 人間が用いると考えられる知識を適用して, 画像内の領域を切り出す。
- (9) 物体の周波数解析 井宮 淳(千葉大), 安田篤司(YHP)
[概要] P型フーリエ記述子と一般円筒表現を利用して物体の周波数解析を行う手法を提案する。
- (10) Smoothed Local Generalized Cones 佐藤嘉伸, 大谷 淳(NTT)
[概要] 2次元形状を記述するために Brady が提案した Smoothed Local Symmetries の3次元形状記述への拡張を試みる。
- (11) 距離データからの等関数値曲面記述の生成 村木 茂(電総研)
[概要] レンジファインダで得られる3次元情報を, 複数のポテンシャル源が作る等ポテンシャル面で近似する方法。

*今回の研究会は電子情報通信学会(パターン認識と理解研究会)との共催で開催されます。上記会告は、11月7日現在の申込みによるもので、上記期日以降(1月25日)の申込み分を含めた最終的なプログラムは、電子情報通信学会誌12月号に掲載されますので、ご了承ください。

◆ 第19回 アルゴリズム研究会

(発表件数：6件)

(主査：西関隆夫，幹事：浅野孝夫，岡本栄司，安浦寛人)

日時 平成3年1月29日(火) 9:00~14:00

会場 大阪大学 基礎工学部 情報工学科 セミナール室

〔豊中市待兼山町 1-1, 阪急宝塚線：石橋下車，徒歩 20分。Tel. 06 (844) 1151 内 4849〕

議題

—9:00~12:00—

- (1) A Breadth-First Vector Algorithm for Manipulating SBDD (共有二分決定グラフ処理の幅優先ベクトルアルゴリズム) 越智裕之，石浦菜岐佐，高木直史，矢島脩三(京大)
〔概要〕 論理関数の表現法の一つである共有二分決定グラフのベクトル計算機向き処理アルゴリズムを提案する。
- (2) 木の公平な重み付け法とその性質について 栗野俊一，深澤良彰(早大)
〔概要〕 木の高さやオブジェクト間の相違を考慮した場合の木の公平な重み付け法を定義し，その性質や応用例を示す。
- (3) Minimal Acyclic Forbidden Minors for the Family of Graphs with Bounded Path-Width 高橋篤司，上野修一，梶谷洋司(東工大)
〔概要〕 Path-Width が高々 k である木を特徴付ける。
- (4) Hypercubes and Oriented Matroids 福田公明(筑波大)，半田恵一(東芝)
〔概要〕 ランク 3 の有向マトロイドのトーブグラフを特徴付ける。Pseudolines の arrangement の組み合わせ構造の認識に役立つ。
- (5) 確率測度の生成と最適化問題 上林 達(東芝)
〔概要〕 スピン系の確率過程を応用した最適化問題の並列アルゴリズムを提案し，理論・実験の両面から検討を加える。

—13:00~14:00—

- (6) 招待講演：VLSI レイアウト自動設計アルゴリズムにおける諸問題 白石洋一(日立)
〔概要〕 VLSI レイアウト自動設計に関連したアルゴリズムを紹介し，問題点や今後の動向について解説する。
*本研究会に引き続き，同会場で電子情報通信学会コンピュータ研究会が開催されます。

◆ グラフィクスと CAD 研究会

「グラフィクスと CAD 文献データベース：1989」の配布のお知らせ

情報処理学会グラフィクスと CAD 研究連絡会では 1988 年から，その活動の一環として，グラフィクスと CAD 関連文献のデータベース化にとりくんでいます。今回，1989 年の 1 年間に国内外で発行された，約 50 種の学会誌，論文誌，国際会議論文集，研究会資料，雑誌等から，グラフィクスと CAD に関する文献約 900 件を収録した「グラフィクスと CAD 文献データベース：1989」が完成しましたので，皆さまに配布いたします。

申込要領

配布は，各自実費負担で MS-DOS のフロッピーディスク (3.5 インチ MF 2-256 HD，または 5 インチ 2 HD) で行います。今回配布は**申込み先着 100 名に限定**させていただきます。申込みは**往復ハガキ**をお願いいたします。往信用はがき裏面に，「グラフィクスと CAD 文献データベース：1989」配布希望と書いて，住所，氏名，電話番号，勤務先，情報処理学会会員番号を記入してください。返信用はがき表面には，回答の宛名を記入してください(問い合わせは書面にてお願いいたします)。配布の可否を返信用はがきで連絡いたします。配布可となった場合には，あらかじめ，フォーマットされたディスク 1 枚を切手を貼った返信用封筒と共に送付していただきます。

申込先：間瀬健二 238-03 横須賀市武 1-2356 NTT HI 研 視覚部

申込締切：平成 3 年 1 月 31 日(木)

◆ 計算機アーキテクチャ研究会

第 79 回 研究会を下記のとおり開催いたします。多数のご発表をお待ちしております。

日 時 平成 3 年 3 月 11 日 (月)

会 場 日本アイ・ビー・エム 東京基礎研究所

発表申込締切 平成 2 年 12 月 25 日 (火)

連絡先 中谷登志男 (日本 IBM) Tel. 03 (288) 8409 FAX. 03 (265) 4251

◆ ヒューマンインタフェース研究会

第 35 回 研究会を、下記のとおり開催します。夜間の自由討議もあわせて奮ってご参加ください。(宿泊は希望者のみ)

日 時 平成 3 年 3 月 7 日 (木) 10:00~17:00

*夜間自由討議 (於 NTT 札幌会館: ビデオ使用可)

3 月 8 日 (金) 10:00~16:30

会 場 北海学園大学 工学部

議 題

● 視覚的インタフェース

- (1) MMS: メディア管理システム 谷 正之 (日立)
- (2) 図形概念形成過程の文脈依存性とその応用 尾田政臣 (ATR)
- (3) 小型航空機および自動車操縦時の人間の眼球運動について
山ノ井高洋, 高柳 浩 (北海学園大), 小山隆正 (ATR), 山崎敏正 (日電)

● 入力法と文書作成

- (4) 定型文書作成支援システム 土田泰治, 辻順一郎 (三菱電機)
- (5) 操作自動マクロ化機能 宮崎一哉, 坂下善彦 (三菱電機)
- (6) 手書きヒューマンインタフェースの構築支援環境 荒井俊史, 正嶋 博 (日立)
- (7) 連続打鍵列の打鍵時間に対する分析と考察 角田博保 (電通大), 粕川正充 (東工大)
- (8) QWERTY ローマ字打ちと SKY 配列の相互干渉 木村 泉 (東工大)
- (9) 日本語ワードプロセッサのかな漢字変換における変換処理と精度についての考察
酒井貴子, 本宮志江, 下村秀樹, 並木美太郎, 中川正樹, 高橋延匡 (農工大)
- (10) ワープロの漢字辞書機能の優劣比較 大島章嘉 (日本能率協会)

● ユーザインタフェースの将来像

- (11) 曖昧検索のためのファジーデータベースシステム 野村恭彦, 小高俊之, 横山光男, 松下 温 (慶大)
- (12) 自然言語インタフェースのための未知概念の学習方法 荒木健治, 佐々木淳一, 桃内佳雄 (北海学園大)
- (13) 思考促進の道具としての知的インタフェースについて 中村 孝 (大阪産業大)
- (14) UI 評価技法の検討 八木佐和子, 宮崎一哉, 坂下善彦 (三菱電機)
- (15) MMI の現状に関する一考察 内木哲也 (東洋大)
- (16) ミニチュートリアル: インタラクション・デザインの実際と問題点
高野正樹, 鹿志村香, 黒須正明 (日立)

● 協調支援インタフェース (1)

- (17) 対話モデルに基づく非同期型研究発表環境の提案 山本吉伸 (慶大)
- (18) マルチエージェントに基づくグループウェア Michele の提案 中内 靖 (慶大)
- (19) グループ内会話モデルに基づいたメイルシステム 市村 哲, 松浦宣彦, 岡田謙一, 松下 温 (慶大)

● 協調支援インタフェース (2)

- (20) グループワークによる複雑な対象の理解支援について
吉澤純一, 武藤昭一, 植田孝夫, 西田正吾 (三菱電機)

- | | |
|----------------------------|-----------|
| (21) 歩調をとった協調：電子輪講 | 神田陽治（富士通） |
| (22) 知識獲得のためのグループウェア GRAPE | 上田晴康（富士通） |
| (23) 緩い協調：協調情報フィルタリングシステム | 渡辺 勇（富士通） |

*会場設営の都合上、参加ご希望の方は、NTT 札幌会館への宿泊希望の有無とあわせて、1月31日（木）までに下記までご連絡ください。

連絡先：黒須正明（日立） Tel. 03 (5485) 1451 FAX 03 (5485) 1457

◆情報システム研究会

「第1回 情報システム若手の会」発表論文募集

第33回 研究会は「第1回 情報システム若手の会」ということで、情報システムの分析、設計、構築、運用ならびに関連した研究、開発などに携わる若手の方々（大学院生、若手社員、若手教育者など）の発表と討論を予定し、下記のとおり、開催いたします。一般発表のほか、基調講演やパネル討論なども計画中です。また、研究会終了後に簡単な懇親会を行う予定です。多数の方々のご参加をお願いします。

テーマは自由です。情報システムの構築手法や開発事例だけでなく、社内での情報システム改善活動や、若手からみたシステム開発の諸問題、情報システムの将来展望などの発表を歓迎します。

日 程 平成3年3月19日（火）

会 場 東京工科大学

申込方法 研究会発表申込書（8月号本欄末添付）に発表題目と50字以内の概要を記入のうえ、12月25日（火）までに学会事務局研究会係、または下記までご送付ください。締切りが迫っていますので早くお送りください。

鷹野 澄 東京大学 地震研究所 113 文京区弥生 1-1-1

Tel. 03 (812) 2111 内 5807 FAX 03 (816) 1159 Email: takano@eri. u-tokyo. ac. jp

論文賞候補の論文推薦のお願い

平成2年度論文賞の候補論文を推薦される会員は、下記事項を参考のうえ、論文の題名、著者名、掲載巻号、論文の専門分野、推薦理由および推薦者住所氏名を官製はがきに記入のうえ、本会論文賞係宛お送りください。

論文選定条件

1. 選定範囲および推薦数

平成元年10月から平成2年9月までの間に「情報処理学会論文誌」(Vol. 30, No. 10~Vol. 31, No. 9)および「Journal of INFORMATION PROCESSING」(Vol. 12, No. 3 ~ Vol. 13, No. 2)に発表された論文の中から1編。

2. 推薦資格

本会正会員に限ります。

3. 締 切 日

平成3年1月31日（木）

表彰規程（抜粋）

第3章 論 文 賞

第9条 論文賞は、本会の機関誌に発表された論文のうちとくに優秀なものを選び、その著者に贈呈する。

第10条 表彰する論文は、原則として毎年4編とするが、編数は事情により変更することができる。

第11条 選定の対象となる論文は、表彰の時期の前前年の10月から前年の9月までの間に発表されたものであることを要する。

第12条 表彰する論文が共著の場合は、共著者全員を表彰する。

第13条 論文賞は、同一著者に重ねて授賞しても差支えない。

第14条 論文賞は、賞状、賞牌および賞金とする。賞金は、論文1編につき30,000円とする。

第42回全国大会予約案内

第41回全国大会（平成2年後期）から、講演論文集の分売制を導入いたしました。これにより、論文集の価格が大幅に変わりましたので、購入担当者の方はご注意ください。

つきましては、講演論文集・参加の「予約」を募集いたしますので、ぜひお申込みくださいますようご案内申し上げます。

期日：平成3年3月12日（火）～14日（木）

会場：東京工科大学（八王子市片倉町）

論文集：B5判オフセット印刷 ※論文集価格は消費税・送料込です

■第1分冊……………予約価4,000円（定価6,000円）

情報科学一般
基礎理論及び基礎技術
ネットワーク
応用

■第2分冊……………予約価4,000円（定価6,000円）

人工知能及び認知科学
人工知能システム
パターン認識
生体情報処理
感性情報処理
データ処理
画像・図形処理

■第3分冊……………予約価4,000円（定価6,000円）

人工知能及び認知科学
基礎理論
自然言語処理
データ処理
音声処理
テキスト処理
マルチメディア処理

■第4分冊……………予約価4,000円（定価6,000円）

ソフトウェア
基礎理論
オペレーティングシステム
データベース・情報検索
プログラミング技術
信頼性と安全性

■第5分冊……………予約価4,000円（定価6,000円）

ソフトウェア
プログラム言語及び仕様記述言語
言語処理系
ツール
ソフトウェア工学

■第6分冊……………予約価4,000円（定価6,000円）

ハードウェア
システム

■セット（上記6冊一揃、講演者索引・カバー付）……………予約価24,000円
（定価36,000円）

参加費（プログラム・参加章含む）：会 員1,000円（賛助会員は正会員に準じます）、
非会員2,000円、学生 無料

申込締切：平成3年2月8日（金）必着

（締切後は予約扱いいたしませんので、ご了承ください）

第42回（平成3年前期）全国大会 論文集・参加予約申込書

■申込締切：2月8日（金）必着

分冊	予約価（円）	部数	金額（円）
第 1 分冊	4,000		
第 2 分冊	4,000		
第 3 分冊	4,000		
第 4 分冊	4,000		
第 5 分冊	4,000		
第 6 分冊	4,000		
セット（6冊一揃）	24,000		
参加費 （プログラム、参加章 含む）	会員 1,000		
	非会員 2,000		
合計			

平成2年 月 日

（論文集価格は消費税・送料込）

上記の通り予約いたします。

1. 代金は 郵便振替, 銀行振込*（該当にレ印） 送金月日 月 日
*全国大会専用銀行口座「三菱銀行虎ノ門公務部情報処理学会講習会普通口座
No. 0003774」

2. 請求書 通, 納品書 通, 見積書 通, が必要です。
〔注意〕団体名でまとめて送金される場合には, 別紙に送金内訳を記入して事務局
までお送りください。

通信欄：

3. 担当者名 _____ Tel. _____ （内 _____）

4. 申込先：Ⓣ 106 東京都港区麻布台2-4-2 保科ビル3F
（社）情報処理学会 全国大会係 Tel. 03(505)0505 FAX 03(584)7925

.....（切りはなさないでください）.....

（送本先住所）（楷書でハッキリ記入してください）

Ⓣ

（所属名）

（氏名） _____ 殿

（Tel.） _____

〔部数〕（記入しないでください）

論（1 2 3 4 5 6 Ⓣ） _____ プ . 参

「1991 情報学シンポジウム」開催について

——知的情報の資源化とその高次処理をめざして——

- 日 時** 1991年1月8日(火)～9日(水) 9:00～17:00
- 場 所** 日本学術会議講堂(地下鉄千代田線、乃木坂駅下車)
- 背 景** 本シンポジウムは、科学における情報の円滑な流通と高度利用を促進するため、データ・情報・知識に関する基本的問題を論じる場として、1984年以来毎年開催されている。これまで、データ・情報・知識の獲得・蓄積・利用の問題について、自然科学から人文科学まで多様な専門分野から発表が行われている。
- 共同主催**(予定も含む) 日本学術会議(情報学研究連絡委員会、学術文献情報研究連絡委員会、学術データ情報研究連絡委員会、情報工学研究連絡委員会)、情報処理学会、人工知能学会、日本医学会、日本化学会、日本数学会、日本地理学会、日本物理学会、情報知識学会
- 後 援**(予定も含む) 学術情報センター、計測自動制御学会、国際電信電話(株)、情報科学技術協会、情報通信学会、電子情報通信学会、日本医療情報学会、日本科学技術情報センター、日本機械学会、日本金属学会、日本原子力学会、日本材料科学会、日本材料学会、日本生化学会、日本電信電話(株)、日本動物学会、日本農学会、日本分子生物学会、日本分析化学会、日本薬学会、化学情報協会
- 参加申込** 氏名、連絡先、資料必要の有無を申込書に記入し12月20日までに申し込む。当日受付もあるが、資料不足の際は事前登録者を優先する。
- 申 込 先** 情報処理学会 情報学シンポジウム係
106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル 3F
Tel. 03 (505) 0505 FAX 03 (584) 7925
- 参 加 費**(資料代として): 共催学協会員 5,000円 学生 1,500円 一般 7,000円

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

第1日 1月8日(火)

バイオデータベース/ゲノムデータベース、全文テキスト処理

- 開 会** (9:00～9:10) 菅原 秀明(実行委員長)
- セッション 1** バイオデータベース(1) 座長 菅原 秀明(理研)
- 1A I-1: 招待講演「バイオインダストリーの CIM 化とデータベース」(9:10～9:50) 長棟 輝行, 遠藤 勲(理研)
- 1A I-2: 「グルタミン酸発酵におけるフェージ制御」(9:50～10:15) 岸本 通雅(東理大)
- 1A I-3: 「発酵プロセス診断用エキスパートシステム」(10:15～10:40) 浅間 一(理研)
- セッション 2** バイオデータベース(2) 座長 藤原 譲(筑波大)
- 1A II-1: 招待講演「蛋白工学研究とデータベース」(10:40～11:20) 八尾 徹(蛋白研)
- 1A II-2: 「蛋白質一次構造の概念的クラスタリングシステムの開発と cytochrome 分子内電子伝達経路の推定」(11:20～11:45) 中川 博之, 小山 泰, 河井 俊一, 岡田 孝(関学大)
- 1A II-3: 「大腸菌遺伝子におけるプロモーター部位の認識に関する研究」(11:45～12:10) 金谷 重彦, 工藤 喜弘(山形大)
- セッション 3** ゲノムデータベース 座長 次田 皓(東理大)
- 1B I-1: 特別講演「ヒトゲノム計画と新しい生物情報科学の展望」(13:10～14:10) 金久 實(京大)
- 1B I-2: 招待講演「線虫 C. エレガンスのゲノムデータベースとその応用」(14:10～14:50) 小原 雄治(遺伝研)

セッション 4 全文テキスト処理

座長 有川 節夫 (九大)

1B II-1: 招待講演「トランスメディアによる全文処理」(15:00~15:40) 田中 譲, 割石 浩一 (北大)

1B II-2: 招待講演「全文テキスト処理のための高速パターン照合アルゴリズム」(15:40~16:20)

竹田 正幸 (九大)

1B II-3: 特別講演「大規模文書データベース用テキストサーチマシンの開発」(16:20~17:10)

加藤 寛次, 藤沢 浩道, 大山 光男, 川口 久光, 畠山 敦, 兼岡 則幸, 秋沢 充 (日立)

第2日 1月9日 (水)

ハイパーテキスト・ハイパーメディア

セッション 5 ハイパーメディアのモデル・理論・技術

座長 吉田 郁三 (日立)

2A I-1: 「階層モデル管理方式概念の仮店舗管理システムGMB (グローバル・

モデルビルダー) 応用事例」(9:00~9:25)

沢 恒雄 (日本 IBM)

2A I-2: 「マルチメディア・ドキュメントアーキテクチャー, MDA, の考察」(9:25~9:50)

亀山 涉, 花村 剛, 富永 英義 (早大)

2A I-3: 「航行めがね: RAR の記述と背景となる情報環境」(9:50~10:15)

大座畑重光 (マッキンテリジェンス)

セッション 6 高度利用者インターフェース・マルチメディアデータベースの構築

座長 根岸 正光 (学情センター)

2A II-1: 「ハイパーテキストの拡張によるオフィスシステムへの応用」(10:20~10:45)

小沢 英昭, 安西祐一郎, 相磯 秀夫 (慶大)

2A II-2: 「シンセティックメディアシステム IntelligentPad」(10:45~11:10)

長崎 洋, 弓崎 潔, 田中 譲 (北大)

セッション 7 ハイパーテキストシステムの応用例

座長 岩田 修一 (東大)

2A III-1: 「計算機利用者支援ソフトウェアに望むこと—ハイパーマニュアル構想—」(11:25~11:50)

増田 耕一 (東大)

2A III-2: 「オンライン情報サービスとハイパーテキスト」(11:50~12:15)

菊池 俊一 (日本科学技術情報センター)

セッション 8 ウィンドウシステムとアプリケーション (招待講演)

座長 尹 博道 (富士通)

2B-1: 「MS-Windows とハイパーメディア環境」(13:30~14:10)

山崎 俊一 (ジークリサーチ&デベロップメント)

2B-2: 「ハイパーメディアと OPENLOOK・XView」(14:10~14:50)

和田健一郎 (日本サン・マイクロ)

2B-3: 「Presentation Manager (OS/2) とそのアプリケーション」(15:00~15:40)

小林 吉夫 (マイクロソフト)

2B-4: 「OSF/Motif とハイパーメディア・システム「電脳机」」(15:40~16:30)

木下 凌一, 本田 克己 (横河・ヒューレット・パッカー)

2B-5: ウィンドウシステムとアプリケーションのまとめ (16:30~17:00)

坂井 利之 (組織委員長)

総括

「1991 情報学」シンポジウム

参加申込書

平成2年 月 日

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○資料代 (該当するものを○でかこむ)

共催学協会員 5,000円 一般 7,000円 学生会員 1,500円

○資料のみ (上記資料代) _____冊

○送金方法

* _____円を a) 当日、会場受付にて支払います。

b) _____月_____日送金します。

* (bを選択したかたのみご記入ください)

b-1) 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

(社)情報処理学会 シンポジウム係 Tel. 03 (505) 0505)

b-2) 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勧銀虎ノ門支店 1013945 富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 太陽神戸三井銀行東京
営業部 4298739

住友銀行東京公務部 10899 三和銀行東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

・送金先銀行名 _____ 銀行宛

・送金取扱銀行名 _____ 銀行 _____ 支店より

・送金人名義 _____ 様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は1枚1人としてください。(コピーで申し込むこと)

(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

所属名 _____

フリガナ

氏名 _____

殿 _____

Tel. _____ (ex. _____) Fax. _____

「オブジェクト指向ソフトウェア技術」シンポジウム論文募集

信頼性が高いソフトウェアを容易に開発するための方策の一つとして、オブジェクト指向のパラダイムがある。このオブジェクト指向の考え方は、要求分析、仕様記述、システム設計、プログラミングなど、ソフトウェア開発の多くの局面に適用され、製品開発においても、その効果を上げてきている。分散処理の時代を迎えて、オブジェクト指向は、重要なキーワードの一つになりつつある。

本シンポジウムにおいては、このようなオブジェクト指向の概念についての現状と技術動向のサーベイ、事例発表、新しい方法論の提案、支援ツールなどをとおして、現状の技術レベルを認識するとともに、今後の課題や、その将来像についての討論を行う。

日時 平成3年5月30日(木)～31日(金)

場所 機械振興会館大ホール

トピックス (主要なテーマは以下のとおりですが、必ずしもこれらに限りません)

- ・オブジェクト指向要求分析
- ・オブジェクト指向仕様記述
- ・オブジェクト指向システム設計
- ・オブジェクト指向プログラミング
- ・オブジェクト指向データベース
- ・オブジェクト指向を支援する CASE ツール
- ・オブジェクト指向における知的ソフトウェア技術

実施方法

- (1) 発表論文については、公募およびソフトウェア工学研究連絡委員による推薦とする。
- (2) 応募された場合は、アブストラクト (A4 判用紙 2 枚) を平成3年1月31日(木)までに提出しなければならない。
- (3) 採否の決定は平成3年2月28日(木)までに連絡する。
- (4) 本論文は和文または英文 (A4 判用紙 10 枚以内) とし、平成3年4月15日(月)までに提出しなければならない。

連絡先・論文提出先 情報処理学会 シンポジウム係

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル Tel. 03 (505) 0505

「情報処理学会 30 年のあゆみ」の頒布について

すでに本欄でお知らせしたように、創立 30 周年記念事業の一環として、標記 30 年史が発行されました。1960 年の創立以来学会の諸活動をとおり、わが国の情報処理の学術技術発展の軌跡と、将来の展望を明らかにしています。会員の皆さまは、自己の情報処理研究のあゆみと重ね合わせることにより、未来への研究意欲と指針を得られることと存じます。

部数に制限がありますので、ご希望の方は次の事項を明確にし、早目にハガキまたは FAX でお申込みください。

- 頒布価 @ 3,090 円 (消費税, 送料込み), 送金 (現金または銀行の別)
- 送本先 (住所, 氏名, 電話等)
 - a. 現金書留 (送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル (社)情報処理学会 30 周年係)
 - b. 銀行振込 (いずれも普通預金口座)

第一勸銀虎ノ門支店	1013945	富士銀行虎ノ門支店	993632
三菱銀行虎ノ門公務部	0000608	太陽神戸三井銀行東京営業部	4298739
住友銀行東京公務部	10899	三和銀行東京公務部	21409

 (名義人) 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会
 - c. 郵便振替口座 東京 5-83484

目 次

歴代会長 (肖像) 就任あいさつ

創立 30 周年記念事業

記念全国大会 / 記念論文 / 情報処理学会 “未来像” の策定 / 記念出版 / 記念祝典 /

創立 30 周年記念国際会議 / 特別賛助活動 / 記念事業顧問団 / 協賛団体

第 1 編 学会 30 年のあゆみ

【第 1 章】 30 年の軌跡

- | | |
|-----------------------|------|
| 1960~1969 年 (草創のころ) | 高橋 茂 |
| 1970~1979 年 (中世から近代へ) | 穂坂 衛 |
| 1980~1989 年 (巨大会への道) | 大野 豊 |

【第 2 章】 活動のあゆみ

沿革 / 会員 / 支部活動 / 総会 / 機関誌 / 調査研究活動 / 全国大会 / 国際活動 / 記念事業 / 出版活動 / 表彰 / 会計 / 事務局

(思い出) 和田 弘 萩原 宏 大野 豊 森口繁一 坂井利之 尾関雅則 清野 武 山本欣子

第 2 編 規格活動の軌跡

高橋 茂

はじめに / 標準化活動の発足 / 国際的な組織の変遷 / 国内組織の変遷 / 標準化活動の概観 / 特記すべき活動 / 将来の展望

第 3 編 情報処理技術の発展と展望

- | | | | |
|--------------------|------------|----------------------|----------------|
| 【1章】 基礎理論 | 野崎昭弘 | 【8章】 日本語情報処理 | 長尾 真 |
| 【2章】 コンピュータアーキテクチャ | 相磯秀夫 | 【9章】 人工知能 | 堂下修司 |
| 【3章】 オペレーティングシステム | 高橋延匡 | 【10章】 コンピュータグラフィックス | 中前栄八郎 |
| 【4章】 プログラム言語 | 和田英一 | 【11章】 CAD/CAM | 山田昭彦 |
| 【5章】 データベース | 植村俊亮 | 【12章】 パーソナルコンピューティング | 石田晴久 |
| 【6章】 ネットワーク | 野口正一 | 【13章】 応用システム | 福井隆夫 高根宏士 三木彬生 |
| 【7章】 ソフトウェア工学 | 落水浩一郎 春原 猛 | 年表 / あとがき / 索引 | |

海外からの送金方法について

海外からの会費、論文誌購読費、各種行事参加費、各種図書購入費等については、円またはドルの銀行小切手により送金されているが、次のような問題があります。

1. 銀行小切手作成の手間がかかる。
2. ドル送金の場合は為替相場の変動により、常に過不足を生じ、経理上支障がある。
3. 円またはドルに拘らず、1,500～2,500 円の換金手数料をとられる。

この点を改善するため、海外からは「VISA」および「Master card」により円立で送金できるようになりましたのでお知らせします。なお、申込書様式は次のとおりとしますが、A4判用紙を用い必ず郵送してください (Fax は不可)。

If you wish to pay with your credit card, please fill in the following form and mail it back to the Information Processing Society of Japan.

To: INFORMATION PROCESSING SOCIETY OF JAPAN
 Hoshina Bldg., 2-4-2 Azabudai, Minato-ku
 Tokyo 106, Japan
 Phone: 81-3-505-0505 Fax: 81-3-584-7925

I wish to pay with my credit card.

Circle one: Master Card VISA

- (1) Card number _____
- (2) Expiry date _____
- (3) Full name of holder as it appears on the card _____
- (4) Amount _____ Japanese Yen
- (5) Details (annual fees, journal, etc.) _____

- (6) Mailing address _____

(Country) _____

Phone _____

Fax _____

Date _____

Signature _____

Note: The fees can also be paid by cash or by bank draft. In the case of bank draft, please add the handling charge ¥ 1,500 to the total amount. We cannot accept personal check

Remit to: Information Processing Society of Japan

Bank account no. 046-1013945

Toranomon Branch, The DAI-ICHI-KANGYO BANK, LTD.

情報処理学会研究報告，全国大会講演論文集，シンポジウム論文集 および学会単独主催の国際会議 Proceedings に掲載された論文等 の著作権の取扱いについて

標記学会出版物に掲載された論文等の著作権の取扱いについては5～7月号本欄でお知らせしたとおり，国内外での科学技術情報の交流の拡大に伴い，標記論文等についても転載の許諾を求める要請が増加するとともに，無断複写（コピー）等の著作権の侵害もまた増加することが考えられますので，標記論文等についても著者に不利益が生じることのないよう十分な配慮を払うと共に，著作権の侵害に対し学会が対応できるようにするため，具体的な措置として機関誌原稿執筆案内の著作権に関する規程を準用して下記の規程を設けております。

つきましては，平成2年8月以降投稿された標記論文等の著作権は原則として情報処理学会に帰属するものいたします。また，これまでに掲載された論文および投稿中で今後掲載された論文につきましても，必要な場合には本制度の趣旨にかんがみ規程を準用させていただきよう会員各位のご了承をお願いいたします。

記

情報処理学会研究報告，全国大会講演論文集，シンポジウム論文集 および学会単独主催の国際会議 Proceedings に掲載された論文等の 著作権の取扱い

1 著作権の帰属

- (1) 標記学会出版物に掲載された論文等（以下論文等という）の著作権は原則として本学会に帰属する。
- (2) 特別な事情により前項の原則が適用できない場合は著者と本学会との間で協議の上措置する。なお特別な事情としては次のような例を想定する。
 - 依頼論文等であって，その内容が著者個人でなく著者の所属する法人等に係るもので，著作権の本学会への移転帰属に関し当該法人等の了解が得られない場合。
 - 特別講演記事などで著者の了解が得られない場合。

2 著作権の本学会への移転帰属による運用効果 および運用上の措置等

- (1) 論文等の著作権は本学会に帰属するが，著者人格権は著者に帰属する。ただし，著者が著者自身の論文等を複製・翻訳等の形で利用することに対し，本学会はこれに異議申立て，もしくは妨げることをしない。この場合著者は本学会に申し出を行い，また利用された複製物あるいは著作物中に出典を明記すること。

- (2) 本学会は論文等の複製をおこなうことができる。但しこの場合関係する著者にその旨了解を得る。
- (3) 第三者から論文等の複製あるいは翻訳等の許諾要請があった場合，本学会は理事会において審議し，適当と認めたものについて要望に応ずることができる。但しこの場合関係する著者にその旨了解を得る。
- (4) 前項の措置によって，第三者から本学会に対価の支払があった場合には関係する著者に報告の上，本学会会計に繰り入れ学会活動に有効に活用する。

3 著作権侵害等に関する注意事項

- (1) 執筆に当たっては他人の著作権の侵害，名誉毀損，その他の問題を生じないよう十分に配慮すること。
- (2) 著者は公表された著作物を引用することができる。引用した場合はその出典を明示すること。
- (3) 万一，執筆内容が第三者の著作権を侵害するなどの指摘がなされ，第三者に損害を与えた場合著者がその責を負う。

支部だより

関西支部 第2回 ソフトウェア研究会

日時 平成2年12月20日(木) 13:10~17:00
会場 (財)関西情報センター会議室(大阪市北区梅田 1-3-1-800 大阪駅前第1ビル8階)
定員 約50名
資料代 600円
テーマ 「CASE」

- (1) CASE 概論(仮題) 鯨坂 恒夫(京大)
- (2) CASE の最近動向とその適用事例(仮題) 杉野 眞幸, 橋本 敏昭(関西日電ソフトウェア)
- (3) CASE の導入と活用(仮題) 佐原 伸, 桜井 麻里(SRA)
- (4) TIS の開発環境の進め方(仮題) 福本賢太郎, 西田 光志(東洋情報システム)

問合せ先 情報処理学会関西支部 Tel. 06 (346) 2543

四国支部 講演会

日時 平成2年12月22日(土) 10:30~12:00
会場 徳島大学工学部C20教室(徳島市南常三島町 2-1)
演題 画像理解 鳥脇純一郎(名大)
参加費 無料(参加資格は問いません.)
問合せ先 愛媛大学工学部情報工学科 石田 信子 Tel. 0899 (24) 7111 (内 3700)

日時 平成3年2月9日(土) 15:00~17:00
会場 高知医科大学(南国市岡豊町小蓮)
演題 地域における産業経済活性化のためのソフトウェア技術の開発について 北添康弘(高知医科大)
参加費 無料(参加資格は問いません.)
問合せ先 前記問合せ先と同じ

平成2年度会費および論文誌・欧文誌購読費の 納入にご協力ください

去る11月中旬に、本年度会費未納の方には、郵便振替用紙によって、再々請求のお願いをいたしました。ご承知のとおり、会費は前納制(すでに多くの方がたは納入済みです)ですし、会費納入の催促は手数や郵便料がかさみ、大きな負担となっております。事情をお察しのうえ、早急にご納入くださいますよう、よろしく願います。

〔預金口座自動振替の会員へ〕

去る7月27日の振替日に、残高不足等で振替未済の会員は、次回振替日が来年3月27日となります。会費が1年間滞納となりますので、すでに個々にご通知しましたが振替未済の方は会員係に連絡いただき、早急に別途ご納入ください。

本会協賛等の行事案内*

第4回 テレマティクスシンポジウム

平成3年2月1日(金)

東京・機械振興会館

システム制御情報チュートリアル講座イーブニングスクール(H)コース「ロボットの適応制御と学習制御」

平成3年2月4日(月), 7日(木), 12日(火), 14日(木), 18日(月)

東京・蔵前工業会館

光産業技術標準化シンポジウム

平成3年2月5日(火)

東京・全共連ビル

第40回 システム制御情報講習会「ここまできた高度情報化技術」

平成3年2月14日(木)~15日(金)

大阪・なにわ会館

平成3年2月20日(水)~21日(木)

東京・ダイヤモンドホール

平成2年度 OR セミナー「ニューラルネット, ファジィ理論の動向と OR への適用」

平成3年2月21日(木)

東京ガス(株)本社

'91 スイッチング電源システム展・シンポジウム

平成3年2月26日(火)~3月1日(金)

東京・サンシャインシティコンベンションセンター TOKYO

ボード・コンピュータ '91

平成3年2月27日(水)~3月1日(金)

東京・サンシャインシティコンベンションセンター TOKYO

SICE 基礎講習会—デジタル信号処理—

平成3年3月11日(月)

東京・家の光会館

第17回 デザインエンジニアリングコンファレンス (DEC)

平成3年4月10日(水)~11日(木)

東京工業大学

講習会第4回「ファジィ理論の基礎」

平成3年4月25日(木)~26日(金)

東京・家の光会館

第1回 ロボットシンポジウム

平成3年5月9日(木)~11日(土)

東北大学工学部

第21回 信頼性・保全性シンポジウム

平成3年6月13日(木)~15日(土)

農協ビル

AI '91

平成3年7月9日(火)~11日(木)

東京流通センター

※ 詳細は本号会議案内欄参照

「情報処理ハンドブック」の頒布について

昨年5月に面目を一新した新版の「情報処理ハンドブック（B5判 1,620ページ）」を発行いたしました。情報処理・情報工学および情報科学の全分野をカバーした我が国で最も権威のあるハンドブックで、関連技術者・研究者・教育者・学生の好伴侶となり、また専門外の読者でも容易に概念がつかめ、更に深く進むための手引きとなります。まだ購入されていない会員は早速に購読されることをお勧めします。

会員には特別価格でお頒けいたしますので、希望者は下記により所定の申込書（コピーにて可）にてお申込みください。なお、目次は次のとおりです。

計算の理論、システム解析の基礎、数値解析、ハードウェア、計算機アーキテクチャ、オペレーティングシステム、データ工学、コンピュータネットワーク、プログラミングの基礎、プログラミング言語の記述と処理系、ソフトウェア工学、人工知能、高水準インタフェース技術、システム論、応用システム、教育、規格と資料。

記

定 価 33,990 円（本体 33,000 円） 送料 900 円

会員特価 28,840 円（本体 28,000 円） 送料 900 円

申 込 先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

情報処理学会「情報処理ハンドブック」係 Tel. 03 (505) 0505 Fax. 03 (584) 7925

平成 2 年 月 日

「情報処理ハンドブック」購入申込書

下記により購入を申込みます。（該当欄を○で囲む）

1. 氏 名 _____

連絡先 (〒 _____)

Tel. _____

送本先 (〒 _____)

2. 情報処理ハンドブック (28,840 円, 送料 900 円) 冊 _____

3. 送金の方法

¥ _____ を次の方法で送金します。（送金日 ____ 月 ____ 日）

a. 現金書留 b. 郵便振替（東京 5-83484） c. 銀行振込（_____ 銀行宛）

銀行振込口座番号（いずれも普通預金）

第一勧銀虎ノ門支店 1013945 富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 太陽神戸三井銀行 4298739
東京営業部

住友銀行東京公務部 10899 三和銀行東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

請求書類の必要な方はお申出ください。

(No. _____)

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____